

2025 年 8 月 24 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒235 番（旧 240 番）（SK 姉）

『主よ君の愛したもう』

聖書⇒マタイによる福音書 11 章 28~30 節（MM 姉）

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。』

礼拝讃美歌⇒434 番（旧 129 番）

『疲れし人々』

聖書⇒詩編 100 章 1~3 節（SK 兄）

『全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

喜び祝い、主に仕え／

喜び歌って御前に進み出よ。

知れ、主こそ神であると。

主はわたしたちを造られた。

わたしたちは主のもの、その民／

主に養われる羊の群れ。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 2 章 6~11 節

『キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒481 番 (KH 兄)

『ああ嬉しわが身も』

聖書⇒詩編 97 章 1, 10~12 節 (ES 姉)

『主こそ王。全地よ、喜び躍れ。多くの島々よ、喜び祝え。』

主を愛する人は悪を憎む。

主の慈しみに生きる人の魂を主は守り／
神に逆らう者の手から助け出してくださる。

神に従う人のためには光を／
心のまっすぐな人のためには喜びを／
種蒔いてくださる。

神に従う人よ、主にあつて喜び祝え。

聖なる御名に感謝をささげよ。』

(祈り)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒144 番 (旧 59 番)

『憂きこと四方に』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 4 節 (CN 兄)

『言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 10 章 10b 節

『わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 3 章 4 節

『あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。』

聖書⇒エゼキエル書 47 章 9 節

『川が流れて行く所ではどこでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、すべてのものが生き返る。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 63 節

『命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。
わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 7 章 11 節

『罪は掟によって機会を得、わたしを欺き、そして、掟によってわたしを殺してしまったのです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 3 章 6 節

『神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。
文字は殺しますが、霊は生かします。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14 章 6 節

『イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。
わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。』

聖書⇒創世記 28 章 10~17 節 (KH 兄)

『ヤコブはベエル・シェバを立ててハラシムへ向かった。とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石の一つ取って枕にして、その場所に横たわった。すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上った

り下ったりしていた。見よ、主が傍らに立って言われた。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」ヤコブは眠りから覚めて言った。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」そして、恐れおののいて言った。「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。』」

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 43~51 節

『その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」更に言われた。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。』」

礼拝讃美歌⇒516 番（旧 258 番）

『主の御許に近づかん』

《建徳要旨》